

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700110		
法人名	プレステック株式会社		
事業所名	グループホーム しらかば園		
所在地	〒028-8602 久慈市山形町川井10-55-1		
自己評価作成日	令和6年8月29日	評価結果市町村受理日	令和6年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境(施設内からも四季折々の景色が楽しめる) ・手作りのケーキやおやつ作りを積極的に提供している ・山菜など旬の物を取り入れ処理段階等手伝ってもらい食事時に提供している ・施設で野菜を育て収穫しておやつとして提供している ・地域との交流のある相撲部屋や歌手の慰問頂いている ・その他地域行事などのイベントに出かけ楽しみを設けている
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は久慈市山形地区の中心地に立地し、豊かな自然と共に、近隣には市役所支所や診療所、消防署のほか、小中学校や道の駅などの社会資源にも恵まれた環境にある。コロナ禍の影響がまだ残っており、地域との交流活動には制約があるものの、取れたての野菜や山菜、カキやクリ等の季節の食べ物が差し入れられたり、地元ゆかりの相撲部屋の力士や地元出身の歌手の来訪があるなど、地区で唯一のグループホームとして認められ支えられている。また、職員の多くは経験豊富であり、利用者の気持ちや希望を的確に把握し、管理者と共に全職員でその意向に対応するようなケアに努めている。災害対策でも、最近になって事業所は一般避難所に指定されており、地域住民にとっての安心感を与える拠点ともなっている。さらに、マイクロバスによるお花見やつつじ祭り見学など、利用者が楽しめる活動も継続的に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念として、職員一人ひとりの理念を掲げ5年間努力してきた。行きつく目標として事業所理念「共に生きる」を掲げ共有している。	運営法人の理念として「共に生きる」があり、玄関に掲げている。また、各職員はそれぞれの年度目標を立てて玄関に掲げ、「共に生きる」をモットーにケアに当たっているが、事業所の理念として具体的に定められているものはない。	事業所の理念は各職員のケアの基本となるものであり、具体的な理念の策定が必要と思われる。なるべく、職員間の話し合いを通じて作成し、日々のケアに活かされていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	バスハイクで地域の桜の花見ドライブ、産直ドライブを楽しんだ。また、地域行事(つつじ祭り、平庭高原祭り)に参加したり、同系列の食堂へ久々の外出に出かけることが出来た。いずれも職員の大半が地域内であり、各行事、連絡調整を密にし計画したうえ感染予防等十分配慮し参加できた。	感染症対策のために、地域との交流は制約が続いているが、町内会の行事に合わせて草刈り作業を行ったり、近隣からの野菜や柿、栗等の差し入れも良くある。事業所前の道路は保育園児の散歩コースでもあるので、園児が手を振ってくれている。また、山形出身の相撲部屋の力士や歌手の来訪もあり、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	連絡を密にし行事等に参加することで認知症の方への支援や実情を見ていただくことで地域の方々の理解や協力を得られている。今後地域の方々においても、この施設自体が地域住民の方々の安心に繋がればと願っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当地域においては感染症における収束が見えず、むしろ感染者数の割合が高い為、集合会議を見送る状況が続いており、前年同様書面会議の対応となっている。今後感想や意見等頂きやすいような工夫をし委員相互の連携が深められるよう工夫することでよりサービス向上に繋がりたい。	運営推進会議は感染予防の観点から書面開催が続いており、開催頻度も3、4か月に1回と少なくなっている。委員は住民代表が2名、民生委員、老人クラブ1名などと、地域との関わりを意識した構成となっている。書面開催として事業所の資料等を送付して意見・質問を求めているが、意見等はあまり寄せられていない。	書面開催の場合には、委員から意見や質問を記入しやすい様式としたり返信用封筒を同封するなど工夫されることが望まれます。また、コロナも5類に移行している状況でもあり、会場を事業所外にするなどして、2か月毎の集合開催を再開するよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは密に情報交換しており、相談等こまめに行う事で利用者の安定した生活に繋げるようしている。	地域包括支援センターは久慈地区にあるため、電話でのやり取りが主になっている。市や市社協主催の会議・研修会にはなるべく参加している。また、普段から山形支所との関りも強く、支所の保健師が現場を良く把握してケアマネと頻りにやり取りしてサポートを受けている。新たに事業所が一般避難所の指定となり、防災面でも行政との連携が進んでいる。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまで身体拘束の事例はない。今後も身体拘束適正化委員会を中心に多方面から、身体拘束・虐待について勉強会をしていく。また、一度行ったことでも定期的に繰り返し行うことで、より職員全員の周知徹底に取り組めるよう努める。	身体拘束適正化委員会は、併設の小規模多機能ホームと合同で設置し、2か月毎に開催している。委員は毎年交替して職員全員が学ぶ機会を得るようにし、会議内容も職員全員で共有している。スピーチロックについては各職員が注意して取り組んでおり、あまり見られていない。家族に説明し了解を得たうえで、1名がベッドセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定例職員会議の際定期的に高齢者虐待防止周知徹底を図るとともに身体拘束適正化委員会を中心に研修会を実施している。また、職員相互の意識を高め注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用案件があり、地域包括支援センターと相談の上次の支援へとつなげることが出来た。今後も権利擁護に関する制度の理解を深めるよう研修の機会をもち理解に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前段階の申請の時点で施設利用における諸費用、活動内容、必要物品等詳しい説明をし、利用について検討してもらっている。また、家族からの不安や質問等親身に聴き取りを行い十分に納得し理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関して料金等不明な事のないよう明細を同封したり、料金の変更(燃料代、食事代等)があればその都度お知らせ文書を発行し理解していただくようにしている。また、普段より連絡しあうなど雑談の機会を設け相談等に答えられるよう努めている。また、各関係機関等にも要望等事例を踏まえる等面談を通し伝えるようにしている。	ご家族には毎月、利用者の事業所での様子を写した写真を職員のメッセージを添えて送付しており、良い感想を頂いている。面会や通院の付き添いで来訪した際には、職員も面談してお話を伺っている。家族からの意見等はなかなか寄せられていないので、独自に家族アンケートを実施することも検討している。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から相互に困りごとや改善点等話し合っており、様々な意見を参考とし、より良い運営に繋げるよう一丸となって邁進している。	ベテラン職員が多く、職員会議では活発に意見等が交わされている。日常的にもケアに関して気が付いたことがあれば、その都度管理者も交えて意見交換している。ホールのソファの追加や配置などの意見が出され改善に繋がっている。職員との個人面談についても今後取り組むこととしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状態・就業態度や貢献度等を勘案した中で給与水準を引き上げる等、処遇改善を図っている。また、働きやすい環境整備の一環として、子育て支援(手当)制度や介護支援(手当)制度を創設している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症リスクの影響を垣間見ながら職員一人ひとりに応じた研修参加を実行していきたい。今後ZOOM等の普及に伴い各種研修への積極的参加も促していく。一方、資格取得に係わる経費については法人として全額負担することで受講を推奨し今年度は3人受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	未だコロナ禍の影響から相互訪問は難しい中ではあるが、利用者等の面談を通して各職員に訪問の機会を設け様々な体験をしてもらっている。また、近隣施設と合同にて救急救命講習も今後予定している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境の変化により不安や行動などに耳を傾け目を配らせ、少しの変化等においても職員間で情報共有に努め寄り添った支援を模索している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様家族においても不安や相談等に耳を傾け、できる範囲で最大限の支援についての提案をし家族の思いにも寄り添い、安心、信頼して頂けるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム しらかば園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のこれまでの生活を加味しながらアセスメントすることにより何を必要としているか、また、何ができるのか摺り合わせ、臨機応変に対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に支援を押し付けるのではなく、協力、相談しあいながら生活することで信頼関係を築き上げ、お互いにとって居心地の良い環境となるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や写真、電話等で適宜連絡を取り合い、情報共有・交換し、良い信頼関係を気づけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で難しいところもあるが、お互いの意思に寄り添い、なるべく顔が見えるよう会話できるよう支援したり、安全に留意しともに記念撮影をしたりしプレゼントし、一切を遮断するのではなく充実したひと時を過ごせるよう支援している。	近所に住む利用者の馴染みの方から様子を聞かれたりするが、その際には、差しさわりのない範囲で元気な様子を伝えている。また、実家に外泊する利用者もいるほか、ドライブのついでに実家のある地域を巡ることもある。最近、ユーチューブで山形地区の流し踊りを観て喜ばれていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で体調が優れない時、気分が落ちている時など雰囲気配慮しながら適切な距離感を保てるよう配慮している。また、掃除等を皆さんで分担して行っているが、体調が優れない時などお互い、いたわりあい協力しあうといった微笑ましい光景も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移行になった、あるいは、経済面から利用継続が困難になった方等に関してこちらでの様子を詳しく伝えたり、現在の様子などについては家族、関係機関から情報のやり取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の訴えに耳を傾け、また、心情の変化に気配りしながら支援にあたっている。想いに関しても家族へ相談し、その方のこれまでの様子等伺い参考にしたり、家族からの支援を可能な限り受けるよう連絡を密にし、本人が安心して過ごせる環境づくりを心掛け職員間でも共有を図っている。	利用者の全員が言葉でのコミュニケーションが可能な状態であり、体操やお掃除の終了後や、ユーチューブを見た後などに、職員が声掛けして利用者の思いや意向を聞き出すよう努めている。外出先の希望や食べたいものなどの話題が多いが、話されたことにはなるべく対応していくようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	23と同様に普通の会話や聴き取り、または家族からの情報をもとに一人ひとりその場にあったサービスを柔軟に提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や心境からあの時は出来ていたからできるはず、これは出来なかったから今後も出来ないだろうという決めつけず、その時の心身の状況を鑑み申し送りしながら寄り添った支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員によっても家族によってもその日の状況によっても違う一面があるため、職員間はもちろん家族にも聴き取りを行うなど情報収集に努め、本人にとってより良い支援が受けられるよう意見を出し合うようにしている。	ケアマネが介護計画を作成している。居室担当者からの聞き取りや連絡ノートの情報等も取り入れながら、入居後6か月を目途に見直しを行い、全職員のカンファレンスにおいて決定している。モニタリングもケアマネが担当し、各利用者の6か月毎の見直しの機会に全職員で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は詳細で分かりやすい記録を目指している。また、職員間で周知、共有できるよう連絡ノートやホワイトボード(食事、排泄、入浴その他)により臨時で入る職員、変則勤務の職員にも分かりやすく伝わるよう工夫し見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態を常に見守りながら家族の動向や意見を交え、施設の利用を進めていくなど柔軟な対応に努めている。その中で他施設等の特性等も踏まえ資料など配布し勤勉に努めている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや、花見、近隣へのドライブ等で、バスを貸して頂く、座席を用意して頂く、食事等の準備等協力して頂く等、安全に留意し共に楽しめる行事を地域の方々に協力いただきながら出来、大変喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面会も兼ね受診時は家族対応できる方はお願いする事もしているが、仕事や遠方の家族、本人の状態等も踏まえ殆ど(現在入所中の方)は職員が対応し、変化等あればお伝えし安心して適切な医療を受けられるよう努めている。	入居前からのかかりつけ医の利用が多く、地元の山形診療所や久慈地区の精神科病院、県立病院となっている。山形診療所は医師の体制が十分でなく受診は週3日と限られているなど、医療面では満足できない状況となっている。通院には大半が職員が付き添っている。看護業務については併設の小規模多機能ホームの看護師が手伝ってくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化等気付いた時、或いは訴えがあった際は看護師へ報告、指示を仰ぎ対応している。また、通院時の結果報告等も必ず看護師に申し送っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供を行い、入院中も状況把握に努めている。退院時も医療機関、家族からの情報を共有し退院後の本人の状態に対応できるよう準備し整えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族はもちろん、我々職員にとっても慣れ親しんだ場所で最後まで見てほしい、看たいという思いは持っている。しかし、現段階では体制が整っていない為、介護度が上がれば次の施設を念頭に入れて頂くよう事前に周知しつつ、特養の入所申請を勧める、他の医療機関へ引き継ぐなど連携を取り終末期へ向けて最善の支援を出来るよう努めている。	重度化した場合の対応については、入居時に本人や家族に説明し了解を得ている。地元には看取りに協力してくれる医師が居ないため看取りは行っていないが、重度化してもギリギリまでケアを続ける利用者もある。重度化した場合には特養ホームに施設変更となる場合が多いが、緊急で久慈地区や近隣の九戸や葛巻の病院に入院する場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制、協力体制についてシミュレーションや役割分担等の確認を定期的に行っている。救急対応においても、あらゆる観点から疑問等出しあい不安があれば医師、看護師、救急隊員等に確認し共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を実施。立ち合いの消防署員より、火災、水害、地震の際の避難等様々な観点からの質疑応答の時間を設けていただきイメージを膨らませそれぞれに合った、安全確保へ向けての取り組み等(避難場所、備蓄食品、用品、個人情報、薬、その他必要最低限の持ち出し等々)準備を進めている。	事業所は川井川近くに立地しているが、ハザードマップでは浸水地区に入っておらず、むしろ安全なために、最近指定避難所に指定されている。消防の立会いを得て火災想定避難訓練を年2回行っている。10月末頃には夜間想定訓練を計画している。また、3日間程度の食料品や水等を備蓄しており発電機も備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し思いを受け止めたケアに努めている。その為に失敗の事例、成功の事例等細かに情報共有し本人を観察し尊重、配慮する努力をしている。その中ではじめは抵抗が強かった利用者さんも徐々に抵抗が減ってくる、笑顔が増えるなど、職員にとっての励みや喜びになっている。	利用者の人格を尊重し、尊厳を損なわないケアを心掛け、特に排泄や入浴ケア等の場面では、プライバシーに配慮して小さな声でさり気なく話しかけるようにしている。また、利用者に対して馴れ馴れしい言葉使いではなく、尊敬を込めた丁寧な声掛けとするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から希望や訴えがあった際はなるべく向き合い傾聴し、そのうえでお互いの出来ること、出来ないことを話し合い合意の上最善の支援を心掛けている。また、せかすことなくゆっくり考えて貰えるよう時間を持つなど納得できる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は提供しても、強制することなく、利用者個々のペースに寄り添った支援を心掛け柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、午睡後、外出前など場面場面に応じ好みの物や服装、髪の毛の乱れなど、こだわりも含め確認やお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人経営の食堂より日曜日以外3食配達され盛り付け、配膳をしている。利用者の状態や好みに併せ、カットや量を調整したり、おかゆなど医師、看護師の指示、または病状によって提供している。日曜日は利用者の希望や旬の物、嗜好品を取り入れ調理し提供している。おやつも含め皆さんに手伝わっていただきながら行っている。	日曜日以外の日には、法人経営の食堂から3食とも配食を受けている。日曜日の献立には、利用者の好みや希望を出来るだけ取り入れ喜ばれている。利用者は山菜等の下拵えや下膳などを良く手伝わっている。おやつは毎日提供しているが、たこ焼きや団子づくりなどは職員と共に楽しんでいる。外出ドライブでは産直のアイスなども楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限がある方に関しては医師、看護師等の指示のもと限りある中で工夫して提供している。栄養のバランスについても嗜好等考慮し、日曜日等代替できるものは工夫し提供している。食事量は体重等も鑑みながら調整している。水分補給もコーヒー、ココア、お茶、スポーツドリンク、シソジュース等飽きないよう無理のないようこまめに飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本毎食後、口腔ケアを行っている。就寝前には入れ歯洗浄(ポリデント)を用い口腔内の清潔保持に努めている。また、自身で行える場合も任せきりにするのではなく定期的に確認するようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い個々の排泄パターンをチェックし、トイレ誘導、支援、見守り、声掛けを行っている。日中は全員がトイレにて排泄を行い、現在1名の方が夜間パッド交換に移行、体調等によっては誘導支援を行うようにしている。	排泄チェック表を活用しながら、利用者の適時なタイミングで声掛けや誘導を行い、全員がトイレでの排泄ができています。1人が布パンツ使用で自立しており、他はリハビリパンツとパッドを使用している。誘導の際には、「空いてますよ」などと話しかけて、羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表において排便の周期を把握、薬等の調整を看護師指導の下行っている。以前より排便困難が続き希望にて浣腸処方されている方が1名おり、看護師に対応してもらっている。改善の為の運動や飲食物での工夫、服薬管理も並行して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は午前、午後と入浴時間や利用者の状態によって特浴槽を利用するなど安心安全に入浴してもらえるよう調整している。どうしても拒否があった際は曜日や時間帯を変更し臨機応変に対応できるよう努めている。	週2回の入浴を基本としており、4人は併設の小規模多機能ホームの特殊浴槽を使用している。入浴時は職員と1対1になる時間であり、会話を楽しんだり好きな曲を聞いて楽しむ方もいる。季節に応じて、柚子湯や菖蒲湯も行っている。また、水虫対策として足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの毛布、タオルケットなど安心して眠れるような環境は整えつつ部屋の温度、湿度にも個々に対応している。また、生活のメリハリや機能維持の支援もしながら、廃用症候群、体力低下に留意し、なるべく本人の望むスタイルで過ごしてもらうよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が毎回確認し飲み忘れ、飲みこぼしがないうよう支援、見守りをしている。拒否があっても、服薬の目的について説明し、納得したうえで飲んでもらう、また、飲みやすい工夫をし、服薬漏れや体調管理に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割については、毎日の掃除を個々の能力に応じ一緒に行ってもらっている(モップがけ、手すりの消毒、テーブル拭き)。その他自分の洗濯物を確認しながら一緒に畳む等出来るだけ家で生活しているような形で支援している。楽しみについても毎月の誕生会やおやつ作りなどして堪能したり、慰問を受け入れ楽しんで頂き、記念撮影しては貼り出し楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過が続いているが、第5類への移行もあり、なるべく他者と交わらない形での外出や、園庭での土いじり、草むしり等気温に留意しながら行っている。地域の方からも様々な苗をいただいたり、秋には柿や栗のお裾分けがあったりなど協力頂いている。	コロナ禍にあつて、外出機会は大きく制限してきたが、それでもマイクロバスでのお花見や平庭高原でのつつじ祭り、久慈溪流沿いの紅葉見学などに出かけ、利用者を楽しみを提供している。また、事業所周辺の散歩や外気浴なども貴重な外出機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭等は原則預からないこととなっており、トラブルにならないような支援をしている。今後利用者によっては金銭管理について考えないわけではないが、現時点では必要性は感じられないと判断している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在携帯電話等保持している方はいないが、禁止しておらず、原則自由である。要望があれば家族と相談の上電話や手紙のやり取りも可能である。踏まえて今後請求時に写真と近況を綴り送っていたものに加え、本人のメッセージも自筆で伝えられる支援も検討したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に空調、エアコン、暖房機など備え付けられており、定期的な清掃、点検をし、好みや快適な室温、湿度の中生活できるよう配慮している。ホールは若干狭くゆったり出来るスペースではないながらも、季節感ある飾りつけなど利用者に手伝ってもらいながら変化を楽しんでいる。	玄関やホール、廊下には季節感のある利用者の様々な作品が飾られており、暖かい雰囲気を感じられる。ホール内はエアコンやヒーター、空気清浄機によって温度と湿度が適温に保たれている。利用者は職員と共に、リハビリも兼ねて毎朝の清掃を行っており、明るく清潔な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースではあるが、個々の能力や精神状態を鑑みながらその方にとって居心地の良い空間づくりに配慮している。また、活動においてもペースを合わせられるよう観察しながら適宜声掛け等支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族からの贈り物や、家族の写真、制作物など希望に合わせ飾りつけている。また、備え付けのベッドの向き、ハンガー、衣装ケースなど本人が使いやすいよう配置など工夫し、過ごしやすい、使いやすい環境づくりを心掛けている。	各居室には、入口に顔写真が掲げられて分かり易くなっている。室内には、ベッドやハンガーラック、衣装ケースなどが備え付けられ、利用者は自分の作成した作品や行事での写真などを壁面に飾っており、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態をみて可能な限り手伝ってもらったり、声掛けなどにより誘導支援しながら出来ない状態を増やさない、かつ無理強いはいしない、体力と精神状態に寄り添った支援に努めていくよう周知、共有に努めていく。		